

南

東

# ルールとマナー

ver.1.0

日本麻将体育協会本部月例会

Japan Mahjong Sports Association

西

北

## ルール

◆中国国家体育総局 1998 年制定公式競技ルールに則り行います。

◆ただし、日本麻将体育協会として以下のように定めます。

(1) 花牌は使わず、136 枚の牌を使用する。

(2) 満貫 (88 点) 制を採用する。

・ツモアガリは、 $96 \times 3 = 288$  点が上限。出アガリは、 $96 + 8 + 8 = 112$  点が上限。

(3) 七対に五門齊は不加算とする。

(4) 槓を含む手の点数計算：

(4.1) 明槓 + 暗槓は一つの役として考え、5 点とする。双明槓は 4 点、双暗槓は 6 点。

(4.2) 槓に関する役：明槓・暗槓・双明槓・明槓 + 暗槓・双暗槓・三槓・四槓を 1 つ数える。

三槓は暗槓の数によらず 32 点、四槓は暗槓の数によらず 88 点。

暗刻に関する役：双暗刻・三暗刻・四暗刻の点数を加算する。

但し、双暗槓のとき双暗刻を加算しない。

(5) メンゼン条件役のツモアガリは、自摸の 1 点を加算する。

メンゼン条件役：全不靠・七対・七星不靠・四暗刻（・十三幺・連七対・九蓮宝灯）

(6) 槓上開花と妙手回春は複合する。

## ファウルとペナルティ

◆トラブルの裁定は、運営スタッフの指示に従っていただきます。

◆アガリ放棄のときチー、ポン、カン、フーはできないものとします。

(1) 間違えた位置からツモった場合：ツモった牌を手牌に接触させる前は、間違えた牌を元に戻して正しい牌をツモリ直すことができる。手牌に接触させたらアガリ放棄。

・他家は間違いに気付いたとき指摘する権利があります。

(2) 暗槓を開示した場合：アガリ放棄。局終了時に開示した暗槓が成立していなかった場合：30 点卓外供託。

(3) 続行不可能な状態に山を崩した場合：90 点卓外供託して、その局をやり直す。

フーロの手順：

(1) 発声する。一呼吸おいてから、手持ちのターツやトイツ、コーツを見せる。

・この間に限り、チーの発声より他家のポン・カンが優先です。

一呼吸おいていない場合は、常に他家のポン、カンが優先します。

(2) 取牌し、3枚もしくは4枚のメンツを並べた後打牌する。

・和絶張がありますのでこの手順を遵守して下さい。

(3) 打牌後フーロメンツが確定します。

打牌前はペナルティなしで訂正可能。打牌後は訂正不可でアガリ放棄です。

・間違えてさらされた牌も和絶張の枚数計算の対象になります。

・フーロメンツは各自の右隅に並べて下さい。

・横フーロ方式（フーロメンツが複数個になったとき順次左隣に並べる）を推奨します。

発声：

(1) 有効な発声は、「チー」「ポン」「カン」「フー」です。

(2) 「ツモ」や「ロン」の発声は無効です。「フー」と言い直せば不問とします。

(3) 有効な最初の発声を実行できないときはアガリ放棄です。

(例) 「ポン、チー」と同じ人が連続して発声した場合、最初に発声した「ポン」を実行しなければならず、あとで発声した「チー」は無効です。このときポンが実行できなければアガリ放棄です。

(4) 但し、自らの発声の後、他家の発声があった場合に限り、発声の言い直しができます。

(例) 「チー」と発声後他家の「ポン」の発声あれば、「フー」へ言い直しできます。

(5) 「フー」と発声して実行できない場合、倒牌しなければ単にアガリ放棄です。

倒牌した場合は、30点卓外供託して、アガリ放棄です。打牌制限はありません。

点数申告：

(1) 出アガリのとき、アガリ牌を手元に持ってきてから点数計算をはじめて下さい。

(2) 「10は18」のように「手役の合計点数」「底点を加えた点数」を両方申告して下さい。

(3) 申告に誤りがあった場合、点数が多くても少なくても同卓者はそれを訂正できます。

(4) 点棒を正しく受け渡すことは、全ての同卓者の義務です。

## マナー

全自動卓使用時の注意事項：

- (1) 牌を落とす前に必ず洗牌を行って下さい。
- (2) 開閉ボタンは次局の親が押して下さい。
- (3) サイコロボタンは、山をセットし、トイ牌してから親が押して下さい。

その他の注意事項：

- (4) 対局場内禁煙。
- (5) 対局中の私語・通話を控えて下さい。  
・対局中携帯電話は電源を切るかマナーモードにして下さい。
- (6) 対局が終わった卓の選手は、対局中の選手の邪魔にならないようにして下さい。